令和４年度　授業改善推進プラン

東久留米市立第九小学校　第５学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、〇、●）
国語	・書くことに対して苦手意識をもっている児童が多く見られる。	・書くことの指導がある単元では、単元のゴールを明確に示し、目的意識をもって書く活動を行えるようにする。	・単元のゴールを明確に示すことで、文章量に個人差はあるものの、９０％以上の児童が単元のめあてを達成きるようにする。
	・話すこと聞くことでは、積極的に自分の思いや考えを伝えることができた。しかし、友達の話を主体的に聞くことに課題が見られる。	・友達の発表を聞き、まとめる視点を示すなど、聞き取る項目を可視化する。	・聞き取った内容をワークシートにまとめる活動などを設定することで、９０％以上の最後まで話を聞くことができるようにする。
算数	・かけ算の筆算やわり算の筆算、さらに、小数の筆算に行き詰まってしまう児童が多く見られる。	・それぞれの筆算の方法や、小数になっても整数の筆算をもとにして行うことを指導し、授業内で定期的に復習の時間を設ける。	・計算領域の単元テストで８０％の児童が８０％以上の得点率にする。
	・問題文を読まなかったり、読んでも意味が分からなかったりして、数字だけを見たり、思い込みで計算しようとする。	・文章題、特に、割合、速さ等の領域で思考が整理できるように、図等を示して関係性を整理した授業を行う。自分の言葉で説明できるように指導する。	・単元に１回以上、音読、絵や図、数直線をかくことを取り入れた授業を実施し、単元テストで７０点以上を７０％の児童が取れるようにする。
理科	・検証方法の計画場面において、予想を確かめるためにはどのように条件を整えて調べたらよいのか発想することが苦手な児童が約４割いる。	・何を調べたいのか、何と何を比べたいのか等、条件制御をしやすいように表に整理させ、実験方法は図で具体化させることで理解できるようにさせる。	・テストの計画場面の条件制御を問う問題で、約８割の児童が８０点以上になることを目指す。（各単元１回以上）
	・予想や仮説の場面で、生活経験や既習を生かして根拠ある予想や仮説を発想することができない児童が約４割である。	・本単元に繋がる既習事項を想起することができるよう、前学年や前単元のデジタル教科書を活用して実験・観察した結果・結論等を提示する。	・８割の児童が根拠のある予想や仮説を記述できることを目指し、ノートの記述で評価する。（各単元で１回以上）
特別の教科　道徳	・身近でない資料を取り扱う際には、考えを深めることが困難になってしまうことが多い。	・写真資料など具体物を提示し、できるだけ資料の内容を理解しやすいようにする。	・資料提示の工夫などを行い、８割以上の児童がワークシートの記述量が増え、考えの深まりが見られるようにする。
	・一面的な見方、考え方に偏ってしまうことがある。	・指導者を学年内で入れ替え、様々な教員が指導に当たることで、より多面的多角的な価値観をもつことができるようにする。	・８割の児童が学習の振り返りに、他者との交流から考えたことを記述できるようにする。